

## 社会学部

## 学部基礎情報

## 【理念・目的】

「自由と進歩」という法政大学の建学の精神を基礎にして、本学部は 1952 年にわが国の私立大学初の社会学部として創立されました。創立以来、社会学部はそれぞれの時代状況と向き合いながら、多様な社会現象が生じる構造を解き明かし、社会的課題の解決を探究することによって、より良い社会づくりをめざしてきました。

社会学部の教育理念は、現代社会の構造と動態、社会に生きる人々の営みの様態を総合的に解明・把握し、社会的課題の解決を探究する能力を持った人材を育成することです。社会学部での学修を通して、ローカルからグローバルまでさまざまな社会現象や社会問題に敏感になり、それを観察・分析・理解・伝達する力を身につけるとともに、より良い社会の理念とそれを実現する方法を提言できる人材を育成することを目指します。

## 【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的（教育目標）】※学則別表(11)

社会学部の教育方針は、学生が次のような力を身につけるカリキュラムを構築し、提供することである。

1. 様々な社会現象に積極的に関心を持ち、自らテーマを設定し、それに関する知識・データを科学的な方法によって幅広く収集・分析できる。
2. テーマの探究に必要な論理的思考力と分析能力、その成果の提示に必要な論文構成能力やメディア技術を駆使した表現能力、外国語の運用能力などが身につけている。

社会学部の教育目標は、以上のような学修に基づいて、複雑な社会の構造とそこでの人々の営みを観察・分析・理解・伝達する力を身につけた人材、社会をより良くする方法を考え、提言できる人材を育成することである。

これに加えて、各学科の教育目標は以下の通りである。

1. 社会政策科学科：社会諸科学を複合的に用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析し、それを解決するための政策づくりを、市民の視点で担える人材を育成する。
2. 社会学科：社会学の理論と方法を用いて、変化し続ける社会の実態を科学的に捉えることを通して、よりよい社会と人々の生き方を構想できる人材を育成する。
3. メディア社会学科：関連諸科学の知見を踏まえて、メディアと社会の関係を分析し、最新技術によるメディアの表現と設計の能力を有する人材を育成する。

## 【ディプロマ・ポリシー】

社会学部では、所定の単位を修得し、以下に示す水準に達した学生に対して「学士（社会学）」を授与する。全学科にわたり必要とされる能力は、以下の通りである。

1. 社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。
2. データや資料の分析によって問いに対する答えを見出すことができる。
3. 問題解決の方法を構想することができる。
4. それらを人々にわかりやすく伝える手法を駆使することができる。

これに加えて、学科ごとに必要とされる能力は、以下の通りである。

## &lt;社会政策科学科&gt;

- (1) 経済学、経営学、財政学、行政学、法律学、政治学、社会学などの知識を身につけている。
- (2) 社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。
- (3) 課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。

## &lt;社会学科&gt;

- (1) 社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。
- (2) 社会調査をはじめとする経験的手法を用いて、変化し続ける社会の実態を科学的に捉えることができる。
- (3) 社会学の理論と方法を通して、より良い社会と人々の生き方を構想できる。

## &lt;メディア社会学科&gt;

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

- (1) メディアとそれを取り巻く環境を捉えるための関連諸科学の知識を身につけている。
- (2) メディアと社会の関係を、メディア研究の手法によって分析できる。
- (3) 最新のメディア技術を利用して、社会的諸課題の解決に寄与するメディアの表現と設計ができる。

【カリキュラム・ポリシー】

社会学部では、学士資格に相応しい専門的知識を学修し、幅広い視野と総合的な判断力を身につけることができるように、次のような指針のもと教育課程を編成する。

- 1. 4年間一貫教育：大学4年間を一貫した体系のなかで捉える。
- 2. 3つの科目群：授業科目を、「総合科目」「学科専門科目」「外国語教育プログラム」という3つの科目群に体系的に整理する。
- 3. 3つの教育段階：3つの科目群を、「入門期」（1年次）、「能力形成期」（2～3年次）、「総仕上げ期」（4年次）という3つの教育段階に沿って段階的に編成する。
- 4. 学科別カリキュラム：各学科の「学科専門科目」を、「入門科目」、「学科共通基礎科目」、「学科共通展開科目」、「コース専門科目」に体系化し、集積的な学修を可能にする。「入門科目」、「学科共通基礎科目」、「学科共通展開科目」により、学科での学修に必要な理論と方法を身につけさせる。同時に、専門分野あるいは対象領域によって区分された「コース専門科目」を学修させることで、学生各自の関心を掘り下げさせる。各学科には次のコースを設ける。

【社会政策科学科】 「企業と社会」、「サステイナビリティ」、「グローバル市民社会」

【社会学科】 「人間・社会」、「地域・社会」、「文化・社会」、「国際・社会」

【メディア社会学科】 「メディア表現」、「メディア分析」、「メディア設計」

- 5. 少人数教育：「総合科目」「学科専門科目」「外国語教育プログラム」の学修とあわせ、1年次の基礎演習と2年次以降の専門演習において、少人数での教育を徹底する。

【アドミッション・ポリシー】

社会学部では、社会現象に幅広い関心を持ち、学習・研究活動を通して社会に積極的に関わる意欲を持つ、次のような人材を歓迎します。

- 1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。
- 2. 物事を論理的に考察することができる。
- 3. 自分の考えを的確に表現できる。
- 4. 入学後の修学に必要な学習意欲や問題関心を有している。
- 5. 社会現象を多面的にみる態度を有している。

一般選抜（A方式、T日程、大学入学共通テスト利用入試）では、「国語」「英語」の他、「日本史」「世界史」「地理」「政治・経済」「数学」の試験科目を通して、総合的基礎学力を評価する（上記1-3）。

英語外部試験利用入試では英語外部試験（英検、TOEFL、IELTS、TOEIC、TEAP、GTEC、ケンブリッジ英検）のスコアと「国語」または「数学」の試験科目を通じて、総合的基礎学力を評価する（上記1～3）。特に「国語」や「数学」で卓越した学力を評価する。

学校推薦型選抜（指定校推薦、付属校推薦、スポーツ推薦入試）では、基礎学力の一定の評価（上記1-3）を前提に、作文、面接等で学習意欲、問題関心等を評価する（上記4、5）。

外国人留学生入試、転・編入試では、基礎学力と学習意欲、問題関心を確認するとともに（上記1-5）、多様な学生を受け入れることによって、学部の活性化を心がけている。

【定員管理の状況】

定員充足率(2017～2021年度)(各年度5月1日現在)

年度	入学定員	入学者数	入学定員充足率	収容定員	在籍学生数	収容定員充足率
2017	742	854	1.15	2,968	3,441	1.16
2018	742	687	0.93	2,968	3,335	1.12
2019	742	687	0.93	2,968	3,267	1.10
2020	742	736	0.99	2,968	3,102	1.05
2021	759	763	1.01	2,985	3,009	1.01

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

5年平均			1.00			1.09
------	--	--	------	--	--	------

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
- ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】※医学・歯学分野は省略

提言	改善課題	是正勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20 以上	1.25 以上
上記以外の分野	1.25 以上	1.30 以上

【定員未充足の場合】

提言	改善課題	是正勧告
すべての分野共通	0.9 未満	0.8 未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
入学定員超過率	1.20 以上	1.17 以上	1.14 以上	1.10 以上	1.10 以上	1.10 以上	1.10 以上
収容定員超過率	1.40 以上						

【求める教員像および教員組織の編成方針】(2018年度自己点検・評価報告書より)

社会学部の理念・目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーを理解し、カリキュラム・ポリシーに沿って学生を指導し、学生たちの自己探求と社会問題への取り組みを多様な形で促進・媒介・指導することのできる教員を求める。また教員組織の編成方針は、本学部のカリキュラム・ポリシーに従って、学生への教育責任を果たすことができるよう、教育課程を構成する3段階(第1期から第3期)において、各専任教員がその一翼を担える仕組み作りを行なう。

具体的には以下のとおりである。

- ・第1期である学部教育への入門期では、「入門科目」、「学科共通基礎科目」は原則として専任教員が担当する。その要である基礎演習担当は原則として開講科目数の半分を専任教員が担当する。
- ・第2期では、「学科共通展開科目」「コース専門科目」は、可能な限り専任教員が担当する。また専門演習である演習1と演習2は専任教員が担当する。
- ・大学生生活の総仕上げである第3期では、とりわけ卒業論文作成の指導を実質的内容とする演習3は専任教員が担当する。

【専任教員数および年齢構成一覧】

2021年度専任教員数一覧(2021年5月1日現在)

教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任 教員数	うち教授数
44	15	5	0	64	41	21

専任教員1人あたりの学生数(2021年5月1日現在): 47人

年齢構成一覧(2021年5月1日現在)

年度\年齢	61歳～70歳	51歳～60歳	41歳～50歳	31歳～40歳	30歳以下
2021	15	26	19	4	0
	23.4%	40.6%	29.7%	6.3%	0.0%

I 2021年度 大学評価委員会の評価結果への対応

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

## 【2021年度大学評価結果総評】(参考)

社会学部は2018年度から導入された新カリキュラムの円滑な運営を図る中で、2022年度からスタートする語学の新カリキュラムについて、将来構想委員会を中心に継続的に検討が行われ、教授会承認を得るに至った点が評価できる。また、コロナ状況下において、基礎演習の実効を確保するための懇談会を実施するなど、継続的な取り組みがなされている点が評価できる。

学部FD委員会において、基礎演習の向上、専門演習の向上など、教育内容の向上に継続的に取り組んでいる点、複数教員が連携する授業では互いに授業方法について検討し、授業の質の向上に努めている点が評価できる。

今後、昨年度の質保証委員会からの提言にある授業時間外の学習に関して科目あたりの学習量がどの程度であるべきなのかについて議論を含めて、Withコロナ、ポストコロナに向けて、対面授業とオンライン授業をそれぞれどのように運営し、カリキュラム全体の中でどう配置するのか、多摩キャンパスの立地や教室数等を踏まえてどのような時間割編成が望ましいのかなどについて、さらなる検討を進めることが期待される。

また、社会貢献・社会連携について、各教員やゼミ活動において、コロナ状況下で行われている社会貢献・社会連携についての情報の収集と整理が行われることが期待される。

## 【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2022年度は対面授業を基本としている。ただし、次の状況に対しては、全面オンライン授業または隔週オンライン授業とせざるを得ない。教室収容人数に対して受講者数が多く十分な空間を保持できない場合、語学、基礎演習などで同時限での開講クラス数にたいして十分な教室数を確保できない場合、スポーツ総合など受講者数に対して収容施設の人数が十分でない場合などである。

中期計画内で、教育効果の観点から各科目で対面、オンライン、オンデマンドのいずれがよりよいかについての検討を盛り込み検討していく。

社会貢献・社会連携は、ゼミ単位での活動で成されている場合が多い。情報収集と整理に関しては、学部内での実績の集積について、方法の検討を行う。

## 【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

社会学部による、2022年度から対面授業を基本としながらも、教室の収容力の点から制約を受ける授業を中心に、教育効果を高める上で、オンラインやオンデマンドなどの方法も総合的に検討するという姿勢は評価できる。ただ、どのような組織体あるいはプロセスにおいて、どのようなスケジュールで検討するのか、具体的なビジョンを明示することが望まれる。

社会貢献・社会連携に関する情報収集と整理についても、同様により具体的な行動計画を提示することが望まれる。

## II 自己点検・評価

## 1 理念・目的

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

1.1①学部(学科)の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。2018年度1.1②に対応

はい

1.1②理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。2018年度1.1③に対応

※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

社会学部では、2018年度からの新カリキュラム設置に際して、学部および各学科の教育理念・目的を再検討した。学部の教育理念・目的については、学部教授会で審議し承認を得た。各学科の教育理念・目的については、各学科の教員全員が参加する「学科カリキュラム運営会議」において、大学および学部の教育理念・目的に沿う形で見直しを行った。

今年度以降も、教授会や年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、理念・目的の検証を継続して行く。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

知し、社会に対して公表しているか。

1.2①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。2018年度1.2①に対応

はい

1.2②学部（学科）の理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。2018年度1・2②に対応

はい

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させるために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容  
外国語教育において、2022年度から新カリキュラムを導入し、初年次の導入時期を強化する。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容  
初年次教育における基礎演習、演習1、2、3についてそのさらなる充実を目指したい。

【理念・目的の評価】

社会学部では、学部の理念・目的が明確に設定されている。  
各学科の教育理念・目的については、各学科に所属する教員全員が参加する「学科カリキュラム運営会議」を年2回開き、大学および学部の教育理念・目的に沿う形で見直しを行いながらカリキュラムを継続的に検証し続けるプロセスが評価できる。改訂された理念・目的は、学則に明示されるとともに、学部履修要綱や学部のウェブサイトに掲載されており、在学生だけでなく、入学を考える受験生やその保護者たちにもしっかりとアピールが行われている。  
上記の検討結果として、2022年度から外国語教育において新カリキュラムを導入し、初年次教育を強化していることは評価できる。

2 内部質保証

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

2.1①質保証委員会は適切に活動していますか。2018年度2.1①に対応

はい

【2021年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。  
【構成】学部専任教員3名  
【開催日】(1) 2月2日、(2) 2月24日  
【議題】(1) 2月2日 2021年度中期目標・年度目標達成状況報告書案について、(2) 2月24日 質保証委員会による点検・評価内容について

2.1②質保証委員会等の内部質保証推進組織は、COVID-19への対応・対策の措置を講じるにあたってどのような役割を果たしましたか。新規

※取り組みの概要を記入。  
質保証委員会は、上記活動を行っており、COVID-19への対応は行っていない。  
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。  
特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
年度当初にも中期計画策定過程などで、幅広い視点からの参考意見、指摘を受ける機会を持つ。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
前年度までの状況を受けて、4月5月に質保証委員会を開催し、学部の中期目標、年度目標策定過程においても執行部に意見指摘をする機会を持つ。

【内部質保証の評価】

社会学部は、学部専任教員3名からなる質保証委員会を設置しており、2021年度には2月に2回の委員会を開催し、中期目標・年度目標達成状況報告書案ならびに質保証委員会による点検・評価内容について検討を行っている。課題・問題点に挙げられているが、年度当初の中期目標・年度目標策定過程においても委員会を開催し、執行部に意見指摘をする機会が持たれている（インタビューより）。

3 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

3.1①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。2018年度3.1①に対応

はい
----

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

3.2①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。2018年度3.2①に対応

はい
----

3.2②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。2018年度3.2②に対応

はい
----

【根拠資料】※冊子名称やホームページURL等。

社会学部履修要綱

- ・2021年度社会学部履修要綱
- ・<http://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/rinen.html>（社会学部HP）
- ・<http://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/tokushoku.html>（社会学部HP）
- ・<https://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000267201008.html>（大学ポータル）

3.2③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。2018年度3.2③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
----------------------

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。

社会学部では、外国語教育の教育課程の編成・実施方針の再検討を行った。2022年度以降、カリキュラム改変を行い実施する。教授会、外国語教育委員会、「学科カリキュラム運営会議」において、各項目の検証を継続して行く。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
—
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
教授会議事録

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.3①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

2021年度1.1①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。 2018年度から導入した新カリキュラムでは、社会科学に関する専門教育は「学科カリキュラム」によって体系的に行われる。「学科カリキュラム」は、各学科がそれぞれカバーする領域に関する専門知識を身につけることができるように組まれている。学科カリキュラムを構成するのは「入門科目」「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」「コース専門科目」の4つの科目群である。前三者は、その学科に所属する学生が共通して身につけるべき専門知識修得の3つのステップに対応している。 1年次に履修する「入門科目」で学科がカバーする領域への導入を行った後に、「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」の履修によって、学科が対象とする領域に関する理論や方法論に関する理解をさらに深める。 以上を基礎にして「コース専門科目」の履修を進めることで、関心のあるテーマに関する知識を深めるとともに、「学科共通基礎・展開科目」で学んだ知識に、より具体的な肉付けを行っていく。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
—
【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度社会学部履修要綱</li> <li>・2021年度社会学部カリキュラムツリー（履修要綱に掲載）</li> <li>・2021年度社会学部カリキュラムマップ（履修要綱に掲載）</li> </ul>

3.3②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。2021年度1.1②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。 2018年度から導入した新カリキュラムは、「総合科目」「学科専門科目」「外国語教育プログラム」という3つの科目群に体系的に構成されている。その上で4年間の一貫教育システムを採用し、大学生活を大きく三期に分けて位置付けている。 第一期は、1年次で入門期にあたる。この時期は、基礎演習における教員との交流、視野形成科目などの総合科目、そして所属学科カリキュラムの入門科目などの1年次から履修できる学科専門科目の受講を通して、2年次以降に知識を深めたい分野やテーマを自由に模索する時期である。 第二期は、2年次・3年次の2年間で、専門科目の学修と研究を進める中心的期間である。この時期には、学科共通基礎科目で専門的な基礎学力を身につけ、さらに、コース専門科目の履修により自らの関心を追究しながら、学科共通展開科目の履修によって知的技能と研究手法を修得する。 第三期は、4年次で、大学生活の総仕上げをする時期である。卒業論文の作成等を通して社会学部で4年間学んだことの集大成を行う。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度社会学部履修要綱</li> <li>・2021年度社会学部カリキュラムツリー（履修要綱に掲載）</li> </ul>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

## 3.3③幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。2021年度1.1

③に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。
「総合科目」のなかの「視野形成科目」群は、幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を育てるという目的を達成するため、「人文科学系科目」(A群)や「国際・社会科学系科目」(C群)に加えて、「自然科学系科目」(B群)についても専任教員が担当する科目を配置し、専門教育と相互に補完しあえるような教養教育の充実を図っている。また、ワーク・ライフバランスを重視した人間形成という意味でのキャリア形成を促すことを目的とした「キャリア形成系科目」(D群)を設置している。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
2021年度社会学部履修要綱

## 3.3④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。2021年度1.1④に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。
初年次教育は2つに分かれる。1つめは、専門教育への導入と、スタディー・スキルや能動的な学びへの態度転換を目的とする「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」である。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は、教育すべき項目を春・秋学期に分けきめ細かい教育を行っている。2つめは、基本的な専門知識の修得を目的とする所属学科ごとの入門科目などの1年次から履修できる学科専門科目である。いずれも本学部の4年間一貫教育の中の入門期に位置づけられる。
春学期に開講する「基礎演習Ⅰ」では、大学での学修に必要な文献の読み方、文献・資料の探索・検索方法、プレゼンテーションの技法等を中心に学ぶ。秋学期に開講する「基礎演習Ⅱ」では、みずからの研究のためのテーマや問題の立て方、論文の書き方等を中心に学ぶ。所属学科ごとの入門科目では、2年次および3年次の知的技能・研究手法修得期にむけた視野の広がりや基礎知識の修得を目的とした学修を行う。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
2021年度社会学部履修要綱

## 3.3⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。2021年度1.1⑤に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。
語学では「学びたい人が自由に学ぶことができる」L字型のカリキュラムを設定している。すなわち、必修外国語科目(Basic English 1・2、諸外国語初級A・B、日本語1・2・3)で「基本的なところをしっかり」学び、意欲に応じて外国語教育プログラム科目を履修することで、語学力を高めることができる仕組みになっている。
また、社会学部には、提携機関に留学して修得した単位が定められた上限内で卒業所要単位に認定されるスタディ・アブロードプログラム(SAプログラム)制度や、長期休暇を活用した単位認定海外短期留学制度も用意されている。しかし2020年度についてはCOVID-19により海外渡航ができないため中止となった。
さらに、対象領域ごとにコースを編成した社会政策科学科と社会学科には、国際性の涵養に重点をおいた「グローバル市民社会」コースと「国際・社会」コースを設置している。これらのコースに設置された科目は全学科の学生が履修可能である。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

2021 年度社会学部履修要綱

3.3⑥学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。2021年度1.1⑥に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。
キャリア教育は、「職業社会論」、キャリアセンターと合同でおこなう「キャリアデザイン論」、学科横断的な専任教員の参加による「社会を変えるための実践論」が開講されている。これらの試みを体系的に位置づけるために、「総合科目」の「視野形成科目」の中に「キャリア形成科目」(D群)が設置されている。就職活動への意識付けにとどまらず、社会での働き方や生き方を考えるという視点も本学部独自の特徴となっている。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
—
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
2021 年度社会学部履修要綱

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

3.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。2021 年度1.2①に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。
<ul style="list-style-type: none"> <li>履修登録までの期間に教務委員による全学年対象履修相談を実施した。</li> <li>成績不振学生を対象とする個別面談は教員と事務課により実施した(6月)。</li> <li>各コースの代表者によるコース選択のためのガイダンスを実施した(11月末~12月初旬)。</li> <li>コース選択時期(12月上旬)の1年生対象「教員によるコース選択相談会」を実施した(複数日)。</li> <li>基礎演習及び専門演習担当教員による学生への応答を行った(随時)。</li> </ul>
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

3.4②学生の学習指導を適切に行っていますか。2021 年度1.2②に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組み概要を記入。
社会学部では1年次に基礎演習、2年次以降は専門演習が設置されており、各演習の担当教員は、基礎演習では大学への定着を含めた学習指導、専門演習では3年間の継続的な指導により可能となるきめ細やかな学習に関わる助言と支援を精力的に実施している。
大学院進学など、アカデミックなニーズの高い学生に対しては、演習だけでなく、各学科で開設される実習科目や特殊講義でも教員が相談に応じている。そして、全教員がオフィスアワーを設置し、授業の受講者か否かに関わらず、学生のニーズに応じた学習指導を行っている。
成績不振学生に対して教務委員と事務課により個別面談を実施し、学生が抱える問題の把握と解決に努めている。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
2021 年度シラバス
2021 年度社会学部履修要綱

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

3.4③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。2021年度1.2③に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組み概要を記入。 シラバスの「授業時間外の学習」項目の記載を徹底する一方で、具体的な実践については各教員の創意工夫と試行を尊重している。授業時に配布・回収する学生からの「リアクション・ペーパー」に対する次回授業内での回答を通じた到達度の確認や、授業中および授業時間外でなされる双方向的なやりとり（質問・コメント）の重視、学生に与えた課題に対する解答を元にした授業展開、学習支援システムの予習・復習のための積極的活用など、その実践は多岐に展開されている。 2021年度も多くの授業や定期試験がオンラインで展開された。対応しての課題量がまちまちになっていた。これらによる学びの質ついて、引き続き検討が必要である。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
2021年度シラバス

3.4④1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行なっていますか。2018年度3.4④に対応

はい
【履修登録単位数の上限設定】※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。 1年次 40単位 各学期 22単位 2年次 40単位 各学期 22単位 3年次 40単位 各学期 22単位 4年次 49単位 各学期 26単位
【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。 ・教職科目、資格関連科目については、上限を超えて履修登録できる。 ・成績優秀者については、上限単位数を8単位引き上げる
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・2021年度社会学部履修要綱

3.4⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。2021年度1.2④に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
【具体的な科目名及び授業形態・内容等】※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。 ・「社会を変えるための実践論」：授業後半にバズセッションを取り入れ、複数教員による集団指導と、学生スタッフの授業運営への参加により、アクティブラーニングの実効性を担保している。 ・「社会学への招待」：学科専門科目担当教員による集団指導。 ・「社会調査実習」：社会調査の企画・設計から、実査、分析、報告書執筆・刊行にいたる全過程の体験・修得。 ・「メディア社会学実践科目」：各コースの「理論」「技法」科目を基礎に学生が行うメディア表現・分析・設計。 ・実務家などを講義に招く「ゲスト講師」制度の設置 以上において、2021年度対面またはオンラインで実施することもできた。オンライン化によって、ゲスト講師については普段ご登壇いただくことができない遠隔地のゲスト講師にご登壇いただけた。社会調査実習については、現地調査ができない場合もあり、過去のデータの読み解きなどの代替手段によって、学習の質を確保した。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
2021年度社会学部履修要綱 2021年度FD委員会報告書

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

3.4⑥それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。2021年

度1.2⑤に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※どのような配慮が行われているかを記入。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・語学については、効果的な語学教育に適した均質な学習環境を提供できるよう配慮している。</li> <li>・基礎演習については、各クラスに多様な入試経路の学生が混在するように、初年次教育が円滑に進むようクラス編成に配慮している。</li> <li>・専門演習については、原則として全学生の履修を保証するために、受け入れ学生数の目安と目安に達しない場合は追加募集を教授会で申し合わせている。</li> <li>・実習科目（政策データ分析実習、政策フィールドワーク実習、社会調査実習、メディア社会学科実践科目、クリエイティブ・ライティング、ニュース・ライティング）については、科目ごとに内容に即して指導可能な学生数を設定している。</li> <li>・情報教育科目については、実習室の規模に即して、学生数を設定している。</li> </ul>
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
2021年度社会学部履修要綱
専門演習について（教授会配布資料）

3.4⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。2018年度3.4⑦に対応

はい
【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。
・執行部と教務委員会による全シラバスチェックを実施し、修正が必要と認められた教員への連絡を実施。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
2021年度社会学部講義概要（webシラバス）

3.4⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。2018年度3.4⑧に対応

はい
【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。
学生による授業改善アンケートに学部独自項目として「授業はシラバスに沿って行われていましたか」を設定し、各教員が確認している。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

3.4⑨通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果についても教えてください。

2021年度1.2⑥に対応

※取り組みの概要を記入。
2021年度もオンライン授業、はいブリッド授業でこれまでの授業の質を落とさないことを課題として取り組んだ。
①教員間の情報の共有 学部教員の非公式MLで、オンライン授業、はいブリッド授業を行うための動画配信や電子会議室の方法、に関する情報交換が活発に行われた。基礎演習（34クラス）担当教員のMLも立ち上げ、ここでもさまざまな情報共有が行われた。
②学生のサポート オンライン授業を受講する学生のPCやタブレット、wifi環境には前年度に較べるとかなり整備されている。しかし一部には、スマホのみで受講を余儀なくされる学生もいると推察された。そこで、スマホのみの学生でもある程度

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

リアルタイムオンライン授業を受けることができること、その時に活用すべきアプリなどを紹介したマニュアルを執行部で作成し配布するなど、機器の不十分さを補う情報の流通を継続した。

③情報機器に不慣れな教員のサポート

英語、諸外国語、実習、情報科目、体育、基礎演習といった科目群ごとにリーダー的な専任教員を通じて、メールのやりとりが困難な教員、学習支援システムを使い慣れていない教員等のサポートを行い、オンライン化に取り残され、質を保てない授業科目が発生しないように目配りした。

④新入生を横につなげる

基礎演習に優先的に教室を割り当て、隔週で対面授業を実施し、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを促した。

⑤単位取得状況

その結果、社会学部の学科学年別の2021年度春学期の平均取得単位数は2020年度に比べて全体として増加した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

事務課提供単位集計情報

3.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

3.5①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。2021年度1.3①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

【確認体制及び方法】※箇条書きで記入。

執行部と教務委員会による、GPCA データ・評価比率データを活用した成績分布の検証を行っている。この結果、大半の教員がシラバスの「成績評価の方法と基準」項目に厳格かつ適切な基準を明記し、適切に成績評価と単位認定を行っていることが確認されている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

3.5②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。2021年度1.3②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組みの概要を記入。

厳格な成績評価を実施するために、本学部では講義科目の「S」評価が「上位20%程度」か、D評価が履修者の50%以上になっていないかを執行部・教務委員会で確認している。

このほか、各科目、ならびに「3つの科目群」及び「3つの教育段階」ごとにGPCA データを集計し、これを教員にフィードバックするとともに、集計結果に基づき成績評価の適切性に関する検証を執行部と教務委員会で実施している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

2021年度社会学部履修要綱 (p.100、【S評価基準について】)

3.5③学生の就職・進学状況を学部(学科)単位で把握していますか。2021年度1.3③に対応

はい

【データの把握主体・把握方法、データの種類等】※箇条書きで記入。

就職・進学状況については、キャリアセンターからの情報を含め、執行部会議で検討している。

学部長会議で報告される進路状況調査については毎回教授会で報告し、学部内で情報の共有を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・キャンアセンター卒業生進路先データ、入学センター提供学部別主な就職先・学部別業種割合データ

3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

3.6①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。2021年度1.4①に対応

はい
【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】※箇条書きで記入。
<ul style="list-style-type: none"> <li>データの把握主体：執行部</li> <li>把握方法：成績分布については、GPAを指標としてデータを構築・分析。進級・卒業状況については、学部・学科・学年単位で集計。</li> <li>データの種類の：学科別・学年別・学部全体の集計データなど。</li> </ul>
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
2021年度教授会資料

3.6②学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。2021年度1.4②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。
演習の履修率、進級・卒業率、卒業論文提出率など教育成果に関する基本的データについて、執行部・教務委員会及び教授会で情報共有し、検討している。例えば、学生の学修成果の最終的な指標ともいえるべき「演習3（卒業論文）」の履修率は毎年度半数を超えており、専門演習の履修促進という本学部の取り組みが一定の成果を上げていることが確認されている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
2021年度教授会資料

3.6③学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。2021年度1.4③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ループリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。
「能力形成期」（2～3年次）においては、学部研究発表会でゼミやグループでの研究発表を行っている。また「総仕上げ期」（4年次）については卒業論文の中から優秀卒論を選考し、「優秀卒業論文集」を刊行している。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
2021年度優秀卒業論文集

3.6④学習成果を可視化していますか。2021年度1.4④に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等
<ul style="list-style-type: none"> <li>「学部研究発表会」での専門演習の研究成果の可視化・発信（毎年11月）。</li> <li>基礎演習・専門演習におけるゼミ論文の執筆奨励と「ゼミ論文集」「報告書」の公開。</li> <li>調査実習科目における「報告書」の刊行・配布。</li> <li>メディア実習科目における作品の公開。</li> <li>優秀な卒業論文を選定した「優秀卒業論文集」の刊行。応募数22本、掲載6本であった。</li> </ul>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習・専門演習の「ゼミ論文集」「報告書」刊行に対する助成金制度の応募件数が10件。</li> <li>・そのほか、学習支援システムを利用したレポート・ゼミ論文等の公開やインターネットを利用した成果物の発信など</li> </ul>
<p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度FD委員会報告書</li> <li>・2021年度優秀卒業論文集</li> <li>・2021年度社会調査実習報告書（開講クラス別に刊行）</li> </ul>

3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

3.7①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2021年度1.5①に対応

<p>A：従来通り効果的に取り組むことができた</p>
<p>※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会（春学期末、秋学期開始直前、秋学期末）</li> <li>・調査実習科目：全担当者による次年度科目の打ち合わせ（秋学期開始時）、調査実習実施に付随する問題の共有と解決（随時）、報告書の回覧（年度末）</li> <li>・学科カリキュラム運営会議での情報交換（春・秋学期各1回開催）</li> </ul> <p>こうした機会を通して、教育成果を科目担当教員間で共有し検証するよう努めている。</p>
<p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<p>特になし</p>
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<p>特になし</p>

3.7②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。2021年度1.5②に対応

<p>A：従来通り効果的に取り組むことができた</p>
<p>【利用方法】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の結果のフィードバックにもとづき、各教員による教育内容の改善等で活用している。</li> <li>・シラバスに、「学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき」という項目を設けている。</li> </ul>
<p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<p>特になし</p>
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>
<p>2021年度社会学部シラバス</p>

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習や英語、諸外国語といった兼任講師率の高い科目群においても、1年または半期に一度専任・兼任講師の交えた懇談会を行っており、その時々の授業における問題点や学生の様子、改善策などを検討し、共有している。</li> <li>また各学科の教員全員が参加する「学科カリキュラム運営会議」を春・秋学期各1回開催し、カリキュラム運営の状況を評価し課題を教員間で共有している。</li> </ul>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

**(3) 課題・問題点**

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
2022年度入学生から、語学関係科目のカリキュラムを改訂した。英語クラスでは、成績別クラス編成を実施し合わせて各クラス人数の適正化を行っている。

**【教育課程・学習成果の評価】****<①方針の設定に関すること (3.1~3.2) >**

社会学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）については学部全体としてのものだけでなく、3学科それぞれが「必要とされる能力」をより詳細かつ具体的に定めている。また学生たちが4年間で、学位授与方針に定められた水準の学習成果を達成できるように、3つの科目群と3つの教育段階を組み合わせた体系的な4年間一貫教育を行うための新カリキュラムを2018年度に導入した。さらに、外国語教育の編成・実施方針の再検討を行い、2022年度以降カリキュラム改編を実施する。

新カリキュラム導入後、教授会や「学科カリキュラム運営会議」、外国語教育委員会において、新カリキュラムの適切性や、教育目標、学位授与方針との関連性の検証が継続して行われている（いく）ことは評価できる。

なお、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針については、大学ホームページ等で周知・公表されており適切である。

**<②教育課程・教育内容に関すること (3.3) >**

社会学部全体で「総合科目」「学科専門科目」「外国語教育プログラム」という3つの科目群が体系的に構成され、大学生活を大きく三期に分けて位置付けている。また、各学科に所属する学生が共通して身につけるべき専門知識を「入門科目」「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」の3つのステップに分け、その上に「コース専門科目」を設置し、段階的かつ系統的な構成として実施している点が評価できる。

さらには、初年次専門教育への導入として、スタディ・スキルや能動的な学びへの態度転換を目的とする「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を開設し、初年次教育・高大接続への配慮も十分になされている。

スタディ・アブロードプログラム（SAプログラム）制度や長期休暇を活用した単位認定海外短期留学制度を用意し、学生の国際性の涵養に取り組んでいる点が評価できる。なお、2021年度はコロナウィルス蔓延によるSAプログラムの中止に伴い、協定先から提示された交流プログラムを紹介するなどの代替措置を講じている。

「職業社会論」「キャリアデザイン論」「社会を変えるための実践論」が開講され、段階的かつ体系的にキャリア教育を行うカリキュラム構成となっている。

コロナ禍で対面授業には慎重だったが、今後の状況を踏まえ、大学の基準に沿った形で対応していくとのことだった（インタビューより）。

**<③教育方法に関すること (3.4) >**

社会学部では、4月の履修登録締め切り前に、教務委員による履修相談を実施し、6月には成績不振学生への個別面談、11月末から12月初旬にかけてコース選択のためのガイダンスや相談会を行っており、履修指導及び学習指導が非常に充実している。

1年次に基礎演習、2年次以降は専門演習が設置され、各演習の担当教員が学習指導を行っている。また、学期ごとの履修登録単位数の上限も適切に設定されている。

「社会を変えるための実践論」などは複数教員による集団指導が行われ、「社会調査実習」等において、アクティブラーニングを実施している。

能力別クラス編成を実施した語学だけではなく、実習科目や情報教育科目でも、適切な受講人数を設定し、実現されている。また諸語の授業で、各国の文化を学ぶ科目が設定されていることは、外国語のより深い理解に資するものとして、評価できる（インタビューより）。

執行部と教務委員会による全シラバスチェックを実施するだけでなく、学生による授業改善アンケートに学部独自質問項目を設定し、必要に応じて翌年のシラバスに反映させるなど、シラバスの実効性の検証に取り組んでいることは評価できる。

遠隔地のゲスト講師の招聘、「社会調査実習」では過去のデータの活用、教員間でオンライン授業の実施手法に関す

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

る情報の共有など、感染症対策に関して多面的に的確に対応している点が高く評価できる。

**<④学習成果・教育改善に関すること (3.5~3.7) >**

社会学部では、執行部と教務委員会が各科目の成績分布の検証を行っており、シラバスの「成績評価の方法と基準」が明確に示され、適切に成績評価と単位認定を行っていることを確認している。

講義科目の「S」評価や「D」評価の基準が明示され、さらには「3つの科目群」及び「3つの教育段階」ごとにGPCAデータを集計し、これを教員にフィードバックするとともに、集計結果に基づき成績評価の適切性に関する検証を執行部と教務委員会で実施していること、兼任講師も交えて懇談会を開催し、授業の受講状況や問題点の情報共有している点は高く評価できる。

学生による授業改善アンケートについては、各教員による教育内容の改善等に活用されている。

学修成果の把握に関して、「学部研究発表会」でゼミやグループでの研究発表を行っている点、「ゼミ論文集」「報告書」「優秀卒業論文集」の刊行、メディア実習科目における作品の公開などで可視化している点は高く評価できる。卒論（演習3）の履修・執筆を3年時より促す試みがとられ、年による変動はありながらも、履修率は半数を超えているとのことで、学生の学修成果として、今後とも質量ともに向上が期待される。

**4 学生の受け入れ**

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

4.1①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

2018年度4.1①に対応

はい

4.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

4.2①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。 **新規**

※取り組み概要を記入。

**【学生の受け入れ方針】**

社会学部では、社会現象に幅広い関心を持ち、学習・研究活動を通して社会に積極的に関わる意欲を持つ、次のような人材を歓迎します。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。
2. 物事を論理的に考察することができる。
3. 自分の考えを的確に表現できる。
4. 入学後の修学に必要な学習意欲や問題関心を有している。
5. 社会現象を多面的にみる態度を有している。

一般入試（A方式、T日程、大学入試センター試験利用入試）では、「国語」「英語」の他、「日本史」「世界史」「地理」「政治・経済」「数学」の試験科目を通して、総合的基礎学力を評価する（上記1～3）。

推薦入試（指定校推薦、付属校推薦、スポーツに優れた者の特別推薦入試）では、基礎学力の一定の評価（上記1～3）を前提に、作文、面接等で学習意欲、問題関心等を評価する（上記4、5）。

特別入試（留学生入試、転・編入試）では、基礎学力と学習意欲、問題関心を確認するとともに（上記1～5）、多様な学生を受け入れることによって、学部の活性化を心がけている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

社会学部パンフレット

入試要項

4.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

4.3①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。 2018年度4.2①に対応

はい

※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

2018～2019年度の入学定員は未充足であったが、2020年度にほぼ定員に近づき、年度を追って改善してきた。2021年度は入学定員を1%超過した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

<https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/gakubu/> (学部学生数 2021年度(2021年5月1日現在))

<https://www.hosei.ac.jp/application/files/2116/2440/9145/2-b-1-1.1.pdf> (入学定員・入学定員超過率(2018～2021年度) 2021/5/1現在)

4.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

4.4①学生募集および入学定員確保の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2018年度4.3①に対応

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

※検証体制及び検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

学生募集及び入学定員確保については、結果を教授会で報告・議論し、執行部を中心として検証している。とくに入試委員会での議論を受け、入学センター提供の資料や助言をもとに年度毎に検証し、執行部を中心として次年度の方針を決めている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

-

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

## (2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

一般入試において数次にわたる合格発表により定員を充足するように対応している。

## (3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画(既に行っている場合にはその進捗状況も含めて)をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

転・編入入試志願者に対応して、社会学部がどのような志願者を希望しているかの案内を準備中。

## 学生の受け入れの評価】

社会学部では、学生募集および入学定員確保の結果について、入学センター提供の資料や助言も参考にして、定期的に検証が行われており、入学定員充足率、収容定員充足率とも適切な水準に保たれている。

## 5 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

5.1①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。2018年度5.1①に対応

はい

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

<p>【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。</p> <p><a href="https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyouinzo/gakubu/">https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyouinzo/gakubu/</a> (大学の求める教員像および教員組織の編成方針 社会学部)</p>
--

5.1②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。2018年度5.1②に  
**対応**

<p>【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。</p> <p>【学部執行部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部長（1名：全体統括）、主任（2名：教務主担当＋入試・人事主担当）、副主任（1名：学生生活担当）</li> </ul> <p>【学部内の基幹委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務委員会（学部長、主任、教務委員で構成され、教務事項全般の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）</li> <li>・学生生活委員会（学修活動の基礎となる学生生活の環境整備等に関する方針を決定し、教授会に提案・報告する）</li> <li>・FD委員会（教育改善のためのFD事業の検討・実施・評価等を行い、教授会に提案・報告する）</li> <li>・外国語教育委員会（外国語科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）</li> <li>・調査実習運営委員会（調査実習科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）</li> <li>・メディア実習運営委員会（メディア実習科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）</li> <li>・情報教育委員会（情報教育科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）</li> </ul> <p>【明示方法】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種委員一覧（委員会別・教員別）</li> </ul> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会学部内規</li> </ul>
---

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

5.2①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。2018年度5.2①に対応

<p>はい</p>
<p>※教員像及び教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。</p> <p>現行カリキュラムは、教授会構成員の専門性を最大限発揮できるよう、その構築段階から組織的に設計されてきた。また、教員の転出、退職に伴う新任採用においても、カリキュラムの維持発展を第一に考えて行っており、カリキュラムと教員組織の対応関係は整合的である。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p><a href="https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyouinzo/gakubu/">https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyouinzo/gakubu/</a> (大学の求める教員像および教員組織の編成方針 社会学部)</p> <p><a href="https://www.hosei.ac.jp/application/files/1816/2432/7020/1-b-2_1.pdf">https://www.hosei.ac.jp/application/files/1816/2432/7020/1-b-2_1.pdf</a> (専任教員数(女性教員比率及び外国人教員比率)2021/5/1現在)</p>

5.2②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。2018年度5.2②に対応

<p>はい</p>
<p>※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。</p> <p>学部専任教員のうち8割程度が学部と大学院の双方に関与しており、大学院教育との連携は密になされている。また、大学院執行部と学部執行部の意思疎通も適宜行っており、双方の連携が図られている。</p> <p>大学院への進学を希望する学部生に対しては、内部進学者向けの大学院入試が実施されており、学部から大学院への一貫した教育と相互の協働を図っている。また、「外書講読」や「原典講読」といった一部科目については学部と大学院の「合併開講」としており、学部と大学院が相互に連携しながら、学部生・大学院生双方の教育にあたっている。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>2021年度社会学部履修要綱</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

2021年度大学院履修要綱

5.2③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。2018年度5.2③に対応

はい

【特記事項】※ない場合は「特になし」と記入。

専任教員の転出、退職に伴う新規採用人事において年齢構成に留意している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

[https://www.hosei.ac.jp/application/files/8516/2440/9146/2-a-4\\_1.pdf](https://www.hosei.ac.jp/application/files/8516/2440/9146/2-a-4_1.pdf) (専任教員の職階別及び年齢別構成 2021/5/1 現在)

5.3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

5.3①各種規程は整備されていますか。2018年度5.3①に対応

はい

【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・専任教員招聘規則
- ・専任教員招聴特例措置申合わせ事項
- ・研究助手の採用
- ・公募実施細則
- ・専任教員の身分昇格、昇格基準
- ・法政大学名誉教授規程

5.3②規程の運用は適切に行われていますか。2018年度5.3②に対応

はい

【募集・任免・昇格のプロセス】※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等（非公開）を添付することも可。

- ・新任教員の募集については、原則公募方式とし、教授会での採用方針や募集方法について十分な議論を行っている。免職については、他校への転出による自己都合退職や定年退職以外で、審議を必要とするような事案は生じていない。
- ・昇格については、資格を有する教員の申請によって、常設の昇格推薦委員会においてその適切性を判断した上で、さらに専門の近い教員による審査委員会を設置して研究業績等を十分に審議し、教授会の承認を得ることにしている。

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

5.4①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。2021年度2.1①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・学部FD委員会が、常設の基幹的な委員会として原則隔週で開催され、基礎演習の向上（教育内容の標準化等の検討）、専門演習の向上（学部研究発表会の運営等）、実験的授業などについて検討しているとともに、学部独自の大規模授業アシスタント・学習サポーター制度を運用することで各教員のFD活動を支援している。この委員会が、執行部、教務委員会、質保証委員会とともに学部PDCAサイクルの一翼を担っている。
- ・個々の教員については、在外研究、国内研究・研修制度、学会出席への補助などによってその研究活動を援助することで、教員の教育研究にかかわる資質の向上を図っている。
- ・原則、全科目を教員相互の授業参観可としているほか、複数の教員が連携する授業では互いに授業方法について意見交換するなどして、授業の質的向上に努めている。
- ・基礎演習、外国語関連科目（英語及び諸外国語）、情報教育科目、調査実習科目、体育科目では、必要に応じて兼任講師を含めた担当教員の懇談会を開き、授業改善のための情報交換を行っている。

【2021年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

## 【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・学部 FD 委員会が、常設の基幹的な委員会として原則隔週で開催され、基礎演習の向上（教育内容の標準化等の検討）、専門演習の向上（学部研究発表会の運営等）、実験的授業などについて検討しているとともに、学部独自の大規模授業アシスタント・学習サポーター制度を運用することで各教員の FD 活動を支援している。この委員会が、執行部、教務委員会、質保証委員会とともに学部 PDCA サイクルの一翼を担っている。
- ・個々の教員については、在外研究、国内研究・研修制度、学会出席への補助などによってその研究活動を援助することで、教員の教育研究にかかわる資質の向上を図っている。
- ・原則、全科目を教員相互の授業参観可としているほか、複数の教員が連携する授業では互いに授業方法について意見交換するなどして、授業の質的向上に努めている。
- ・基礎演習、外国語関連科目（英語及び諸外国語）、情報教育科目、調査実習科目、体育科目では、必要に応じて兼任講師を含めた担当教員の懇談会を開き、授業改善のための情報交換を行っている。

## 【2020 年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

## ・FD 委員会

【開催日】4月14日、4月20日、5月11日、5月25日、6月8日、6月22日、7月6日、7月20日、9月21日、10月12日、10月26日、11月16日、12月7日、12月21日、1月25日、2月22日

【場所】Zoom

- 【テーマ・内容】I 授業支援（1）学習サポーター・大規模授業アシスタントの実績、（2）ゲスト講師対応、  
II 学部研究発表会（運営方針、スケジュール・発表内容、評価・課題）、  
III ゼミ選考関連（1）専門演習（ゼミ）紹介パンフレット、（2）ゼミ紹介 Weeks の実施、  
IV その他の活動・新カリキュラムに合わせたFD活動のアイデア（継続）、基礎演習のあり方に関わる検討（継続）、新2年生へのケア（ラーニングサポーター制度もあり）（新規）

【参加人数】FD 委員 6 名

## ・基礎演習担当者懇談会

【開催日】春学期末 2021 年 7 月 27 日 と秋学期末 2022 年 1 月 18 日

【場所】Zoom

【テーマ・内容】秋学期の授業方針、2021 年度の学生の様子、2021 年度の授業方針

【参加人数】15～20 名（途中出入有）、27 名（担当者 21 名＋教務委員・FD 委員・執行部各 2 名）

## ・情報教育関連懇談会

【開催日】コロナ禍により、対面での開催は見送り。随時、兼任各先生方へメールにより必要な情報の共有。

【場所】メールによる情報共有と、必要な兼任教員に対しての個別相談対応。

【テーマ・内容】2021 年度実習の状況と留意点について情報共有。

【参加人数】全兼任教員 9 名へのメール。

## ・調査実習運営委員会

【開催日】(1) 4 月 5 日、(2) 9 月 28 日、(3) 12 月 8 日、(4) 2 月

【場所】オンライン開催

- 【テーマ・内容】(1) 学部担当科目、実習担当者および大学院担当科目の確認、実習の進め方、社会調査室改装後の確認、社会調査士資格・専門社会調査士資格申請状況の確認、ガイダンス参加者状況の報告など  
(2) 2021 年度実習の実施状況とコロナ禍における実習の進め方についての議論、実習参加者数の確認。2022 年度調査実習担当者決定、調査士関連科目担当者の決定および依頼、大学院社会学研究科および公共政策研究科専門社会調査士資格関連科目の切り離しについての担当者の決定など  
(3) 2021 年度科目申請作業に関する依頼、実習担当者（2020 年度まで）に対する実習修了者への社会調査士資格申請作業に関するとりまとめ依頼  
(4) 調査実習報告書の完成についての確認、社会調査士資格申請希望者のとりまとめと申請作業（メールによる）

【参加人数】専任教員 6 名

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

<p>・体育科目担当者懇談会</p> <p>【開催日】(1)7月16日、(2)12月24日</p> <p>【場所】Zoom</p> <p>【テーマ・内容】(1)春学期授業のふり返し、秋学期にむけての課題整理。オンライン授業に関する意見情報交換が行われた。</p> <p>(2)秋学期授業のふり返し、次年度にむけての課題整理。オンライン授業に関する意見情報交換が行われた。</p> <p>【参加人数】(1)14名(専任1名+兼任13名)、(2)12名(専任1名+兼任11名)</p> <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>2021年度 FD 委員会報告書</p>
---

5.4②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。2021年度2.1②に対応

<p>A：従来通り効果的に取り組むことができた</p> <p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>社会学部では研究活動の活性化と資質向上のために、年4回学部紀要『社会志林』を刊行している。また、例年大学院社会学研究科と共同で教員や大学院生が研究成果を報告し意見交換を行う「社会学コロキウム」を年3回開催している。</p> <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>学部紀要『社会志林』</p>
---

(2)長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
<p>基礎演習、外国語関連科目、情報教育科目、調査実習科目、体育科目では、必要に応じて兼任講師を含めた担当教員ごとの懇談会を年数回開き、授業改善のための情報交換を行っている。</p>

(3)課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画(既の実施している場合にはその進捗状況も含めて)をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
<p>情報交換の質的向上を目指す。</p>

【教員・教員組織の評価】

<p>社会学部では、教員の採用・昇格について明確な基準が定められており、学部内の役職や教員組織の役割分担、責任の所在も明確になっている。教員組織の編制は、学部のカリキュラムにふさわしいものとなっており、大学院教育との連携にも十分な考慮が払われている。教員の年齢分布についても概ね適正である。</p> <p>教員の募集・任免・昇格に関わる各種規程は整備されており、各種規程の運用は適切に行われている。</p> <p>新任教員の募集について、原則公募方式としていることは高く評価できる。また学部FD委員会が隔週開催され、TAの採用が積極的に行われ、さらには社会学部独自の学習サポーター・大規模授業アシスタント制度も運用されており、教員の授業の質向上に対する熱意が強く感じられる。</p> <p>研究活動や社会貢献等の諸活動については、年4回学部紀要『社会志林』を刊行するほか、大学院社会学研究科と</p>
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

共同して「社会学コロキウム」を年3回開催している点が評価できる。今後も学外とのコラボレーションを進めるなどの「実験的授業」を検討中とのことで（インタビューより）、実現が期待される。

## 6 学生支援

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

6.1①卒業・卒業保留・留年者及び休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。2018年度6.1①に対応

はい
【データの把握主体・把握方法・データの種類の種類等】※箇条書きで記入。 ・卒業生、卒業保留者、留年者、休・退学者の状況については、執行部、教務委員会、教授会という三つのレベルで把握し、その内容を共有している。 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし

6.1②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。2018年度6.1②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。 ・1年次の基礎演習において、担当教員が初年次教育の観点を中心に学生の修学支援を行っている。 ・2年次以降の専門演習において、担当教員が専門教育の観点を中心に学生の修学支援を行っている。 ・全教員がオフィスアワーを設定し、学生からの希望に応じて修学支援を行っている。 【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 - 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし

6.1③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。2018年度6.1③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
【成績不振学生への対応体制及び対応内容】※箇条書きで記入。 「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を行っている。 【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 - 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし

6.1④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。2018年度6.1④に対応

B：改善することができなかった
※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。 外国人留学生は依然として入学できない場合があった。すべての科目をリモートで受講しなければならない学生もいた。 留学生と教員が一堂に会する「留学生懇親会」を実施できなかった。この企画は、修学支援を目的としている。外国人留学生どうしと教員が交流することで、互いに学生生活を支え合う非公式なネットワークづくりを促すと同時に、教員と歓談しながら様々な修学上の問題を相談できる機会である。 【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<p>—</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>
---

6.1⑤学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。2018年度6.1⑤に対応

<p>A： 従来通り効果的に取り組むことができた</p>
<p>※学生の生活相談に関する取り組みの概要を記入。</p> <p>キャンパス全体の組織である多摩学生相談・支援室に学部から学生相談・支援室教員相談員を派遣し、学生の生活相談に組織的に対応している。</p> <p>学部事務課が随時窓口で学生の生活相談に対応している。</p> <p>演習担当教員はゼミ生からの問合せに対して、必要に応じて、学生相談室を紹介したり、みずから相談したりして対応している。</p>
<p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<p>—</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

<p>内容</p>
<p>・教員による履修等の相談は、学生側からすると敷居が高く感じられている様である。</p>

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

<p>内容</p>
<p>・学生、先輩による相談会を設定することで、特に新入生や前年度までほとんど登校しなかった学生に対しても気軽に相談できる機会を提供する。</p>

【学生支援の評価】

<p>社会学部では、1年次の基礎演習、2年次以降の専門演習において、担当教員が学生の学習指導を行っているほか、成績不振学生を対象とした「個別学修相談会」も実施しており、適切な修学支援が行われている。外国人留学生と教員の交流の場である「留学生懇親会」を開催できなかったことから、何らかの代替措置を講じることが求められる。</p> <p>学生の生活相談に対しては、多摩学生相談室・障がい学生支援室に学部から学生相談・支援室教員相談員を派遣し、学生の生活相談に組織的に対応しているほか、学部事務課が随時窓口で学生の生活相談に対応しており、評価できる。課題・問題点に挙げられているように、学生や先輩によるピアサポート体制についても、より具体的な行動が待たれる。</p>
--

7 教育研究等環境

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

7.1①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフ、授業支援アシスタント、ラーニングサポーター等を配置することによる、教員の教育研究活動を支援する体制は整備されていますか。2018年度7.1①に対応

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

S : さらに改善することができた
※教育研究支援体制の概要を記入。
入門科目や実習科目へのTAの採用を積極的に行っている。また、授業用のパソコンや情報機器、各種ソフトの使用ならびにメンテナンスに対応するため、メディア表現実習室に技術スタッフを一部配置している。また、学部独自の教授活動・学習支援制度として、社会学部FD委員会の指揮・指導のもと学習サポーター・大規模授業アシスタント制度を運用している。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
情報科目におけるティーチングアシスタントは、担当教員に履修者から担当適性ある学生を推薦いただく方法に変更した。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・社会学部FD委員会資料（学生アシスタント制度に関する規程）

7.1②学部（学科）として、学生の学習環境や教員の教育研究環境の整備に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。 **新規**

※取り組みの概要を記入。
学生は対面とオンラインが同日にある場合、登校した上でのオンライン受講場所を必要としている。学部内空き教室もその場合の受講場所として利用するための案内をしている。特に声を出す語学授業に対応するために、どの空き教室が声を出して受講してよいかも案内している。合わせて必要な電源タップも配備している。
教員は教室対面授業において、登校できず自宅などからの受講を余儀なくされる学生に向けてのはいブリッド授業をせざるを得ない場合があります。教員のはいブリッド授業に必要な機器整備、マニュアル整備、手続準備補助、ノウハウの情報共有によって、円滑に実施される様に努めている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させるために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
基礎演習、外国語関連科目、情報教育科目、調査実習科目、体育科目では、必要に応じて兼任講師を含めた担当教員の懇談会を年数回開き、授業改善のための情報交換を行っている。 専任教員間では、メーリングリスト等を通じて必要に応じてノウハウの共有がなされている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
情報交換の質的向上を目指す。

【教育研究等環境の評価】

社会学部では、入門科目や実習科目へのTAの採用が積極的に行われ、さらには学部独自の教授活動・学習支援制度として、学習サポーター・大規模授業アシスタント制度も運用されており、充実した教育環境が整備されていると高く評価できる。 オンライン受講生に対する空き教室の案内や、登校できない学生へのハイブリッド対応などが行われている。さらに基礎演習など、複数のクラスで開講される授業の担当教員の懇談会を年数回開き、授業改善のための情報交換を行っている点やオンライン授業のノウハウの共有が行われている点など評価できる。今後も支障が生じず可能な範囲で
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

情報交換の質的向上が期待される。

## 8 社会貢献・社会連携

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

8.1①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。【2018年度8.①に対応】

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会に加盟し、それを教育研究に還元する取り組みを実施している。また、いちよう塾（八王子都市大学）の月別公開講座に講師を派遣している。多摩キャンパスに設置されている多摩地域交流センターに学部として委員を出し、地域交流に関する取り組みに協力している。また、グローバル教育センターが進める事業について、学部としてグローバル教育センター委員等を出し、国際交流事業に関する取り組みに協力している。教育研究の成果の社会還元方法については、その都度、検討し実施している。

実務家などを講義に招く「ゲスト講師」制度を設置し、学外に開かれた多様な視点に学生が触れられるよう配慮している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

## (2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

リモート利用が可能となっていて、ゲスト講師には多摩キャンパスまでおいでいただくなくてもよく、より幅広い招聘につながっている。

## (3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

コロナ禍において対面での対応の低下が関係のレベルの曖昧化に繋がらない様、コロナ禍への社会的対応状況とともに対応して行く。

## 【社会貢献・社会連携の評価】

社会学部は、大学や多摩キャンパス全体で取り組まれている学外組織（大学コンソーシアム八王子など）との連携協力や社会貢献活動に委員を出したり、講師を派遣したりしているが、さらに学部独自の取り組みを一層期待したい。多摩地域交流センターを通じて、多摩キャンパスの資源（空間・設備や人的資源）を活用しながら、一層の取り組みが行われることを期待したい。

## 9 大学運営・財務

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

9.1①教授会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。 2018年度9.1①に対応

はい
※概要を記入。 社会学部教授会に、学部長のほか、教授会執行部として教授会主任2名、教授会副主任1名を置き、内規に基づき選任している。 また、社会学部教授会は、社会学部教授会規程ならびに教授会運営に関する内規によって定められた明確な権限や責任等に基づき運営されている。また、社会学部教授会は、原則として月2回、年度内に20回開催することとしている。
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・社会学部教授会規程 ・社会学部教授会日程

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・教授会を頻繁に開くことによりタイムリーで緊密な情報共有が可能になっている。 ・幅広い専門知識を持つ教員により多面的な議論が展開される。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
教授会における議論がその場で繰り広げられやすく、時間的な負担感が大きいと感じられているようである。

【大学運営・財務の評価】

社会学部では、各役職の権限や責任が規程によって明確にされており、教授会の定期的な開催をはじめ、規程に則った運営が適切に行われている。ただ、課題・問題点に挙げられているように、教授会での議論をより効率的に行えるように改善していくことが望まれる。
---

III 2021年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	①2018年度から導入した新カリキュラムの円滑な運営を図る（2018年度～2021年度） ②2018年度生の専門教育が本格化する2020年度以降、新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。
	年度目標	①2018年度新カリキュラム4年目にあたるため、新カリ生の学びがディプロマポリシーに沿ったものとなっているかどうか評価する。 ②新カリの改善点について検討が行われる。
	達成指標	①新カリ生の卒業・進級が支障なく行われ、ディプロマポリシーに沿ったものとなっているか学部内で評価が行われる。 ②学科カリキュラム運営会議において新カリについての評価検討が行われる。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価 自己評価 A 理由 2022年度より語学の改革を中心とした新カリキュラムへ移行するため、履修要綱の改訂のために、カリキュラムツリーやカリキュラムマップについて教務委員会で検討を行っ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

			た。しかし2018年度カリの成果や問題点などについては検討が十分に行われたわけではなく、次年度以降の課題である。
		改善策	今年度法人より授業科目のスリム化計画の提出を求められている。社会学部はスリム化計画として、専任教員の授業負担の適正化などを目的に2026年度に向かって、カリキュラムの改訂を行うことのために、来年度から2018年度カリ変の改革の成果や問題点の洗い出しを行う予定。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	喫緊の課題であった2022年度の語学を中心としたカリキュラム変更の実施に向けた準備は、教務委員会・教授会での議論を尽くした上、滞りなく行われたものと評価できる。2018年度のカリキュラムの評価については、2021年度末に履修学年が一巡したところで本格的に取り組むことでよいのではないかと。
		改善のための提言	科目スリム化など学部内外の状況の変化に合わせたカリキュラム改革の実施が求められており、その際に2018年度カリキュラムの課題や到達点等を分析することが必要であろう。
No		評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2		中期目標	①学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ②With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせる質の高い授業を実現する
		年度目標	①教員による履修相談会、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスによって、学生への学習指導が遠隔の環境の中で行うことができる。 ②With コロナ・ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業の組み合わせを最適化する時間割を実現する
		達成指標	①大学の行動制限レベルを配慮しながら、最適な方法で履修相談会、成績不振学生「個別学修相談会」、コース選択ガイダンスが行われる。 ②With コロナ・ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業の組み合わせを最適化する時間割の検討を行う
		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	大学の行動制限レベルを配慮しながら、最適な方法で履修相談会、成績不振学生「個別学修相談会」、コース選択ガイダンスを行った。将来構想委員会で来年度のWith コロナ・ポストコロナの中での対面・オンライン授業の組み合わせと時間割について議論し、時間割編成を実施した。また多摩将来計画推進委員会と合同で、多摩キャンパスのネットワークやwifiについて全学ネットワーク委員長にヒアリングを行い、大学での対面・オンライン教育に必要なインフラの確認を行った。
	改善策	—	
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	コロナ感染を巡る状況が転変するなかで、履修相談会を対面・zoom双方で実施したり、with コロナに対応した時間割編成の実施やハイフレックスの対象拡大を行うなど、直近の学生や授業の諸課題に適切に対応した点は評価できる。さらに、多摩キャンパス全体を視野に入れて対面・オンライン教育に必要なインフラ整備に向けたヒアリング実施など、中期的な課題に取り組んだ点も高く評価できる。
		改善のための提言	—
No		評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3		中期目標	①基礎演習の教育内容の向上、専門演習選考方法の改善に取り組み、少人数教育の一層の充実化を進める。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

		<p>②学部教育の到達点となる演習3について履修率を高め、卒業論文の提出率を向上させる。また、優秀卒業論文集の継続的刊行と各演習での活用を行う。</p> <p>③ゼミ論文集の作成、学部研究発表会の実施等により、専門演習の成果の発信と教育内容の充実化を図る。</p>	
	年度目標	<p>①オンライン・ハイフレックスを含んだ基礎演習・専門演習においてどのように質の高い授業が可能かについて情報収集と情報提供を行う。</p> <p>②オンライン・ハイフレックスの利用により、就職活動と演習3への参加の両立を促進する</p>	
	達成指標	<p>①オンライン・ハイフレックスを含んだ基礎演習・専門演習の運営方法について情報が収集される</p> <p>②新カリ導入前後・オンライン併用前後の専門演習の履修や単位取得について、情報収集が行われる</p>	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
	自己評価	A	
	理由	基礎演習担当者懇談会を春学期末と秋学期末の2回行い、対面・オンライン隔週の授業形態での運営などについて情報収集・意見交換を行った。アンケート調査も行った。新カリ4年目となるが、専門演習の履修率、卒業論文の提出率データを執行部で収集し、教授会に情報共有した。	
	改善策	—	
	質保証委員会による点検・評価		
	所見	新型コロナウイルス感染状況が転変する困難な年度であったが、対面・オンライン授業方式併用の課題など基礎演習の兼任講師を含めて、適切な情報収集・情報提供が行われ、得られた情報は教授会に共有できている。	
	改善のための提言	この間、状況が目まぐるしく変化する新型コロナ対応に追われたことはやむを得なかったところだが、専門演習の履修率や卒論の提出率の低下傾向については、諸数値を把握・分析して要因を探るなかで、今後の対応策を検討していく必要がある。	
No	評価基準	学生の受け入れ	
4	中期目標	<p>①「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学定員の的確な査定を行う。</p> <p>②入試経路の多様化のために、必要に応じて新しい入試制度の導入を検討する。</p>	
	年度目標	<p>①入学定員が「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学定員の的確な査定を行う。</p> <p>②2022年度入試から導入予定の英語外部試験利用入試を着実に実施する</p>	
	達成指標	<p>①「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」に沿った入学定員比率を堅持できている。</p> <p>②英語外部試験利用入試で定員を確保できる、いずれの目標も達成できている。</p>	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	<p>①定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準に沿った入学定員比率を堅持できている、</p> <p>②英語外部試験利用入試では17名の枠に1353名の志願者があり、定員を確保できる見込みである。いずれの目標も達成できたと考えられる。</p>
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見	入学定員は適切に管理されており、評価できる。また、英語外部試験利用入試についても滞りなく実施し、定員を確保できる見込みであり、目標は達成できている。		
	改善のための提言	—	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	①2017年度人事構想委員会答申に沿って適切な専任教員の採用を順次実行していく。	
	年度目標	①2021年度に公募している「ウェブ・プログラミング」、「哲学」、「行政法」の採用人事が支障なく行われる	
	達成指標	①2021年度に公募している「ウェブ・プログラミング」、「哲学」、「行政法」の採用人事が支障なく行われる	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	「ウェブ・プログラミング」、「行政法」の採用人事が支障なく行われたが、「哲学」については採用者なしとなった。とはいえ2017年度に策定した人事構想については大筋予定通りに進行している。
		改善策	「哲学」が採用に至らなかった最大の理由は、審査に時間を要したことと採用内定に時間がかかったことである。公募時期や審査スケジュールについてさらに検討を要する。
質保証委員会による点検・評価			
所見	コロナ禍のなか「ウェブ・プログラミング」、「行政法」の新任人事を行い、適切な人材を得ることができた。「哲学」に関しては、複数の面接予定者が直前に辞退する等により採用者なしとなったが、学部の人事構想はおおむね順調に進展しており、目標は達成できている。		
改善のための提言	適切な人材の確保に向けて、採用予定者の内定時期の前倒しが直接的な改善要因になると考えられる。公募の開始時期も含めて採用スケジュールを再検討することが望まれる。		
No	評価基準	学生支援	
6	中期目標	①オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、成績不振学生を通じた個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。	
	年度目標	①コロナ禍が続く中での授業外での学生支援のあり方について検討する	
	達成指標	①コロナ禍が続く中での授業外での学生支援のあり方について検討される	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	1年生の専門演習・コース選択の時期にラーニングサポーター制度を利用して、「先輩学生による相談窓口」を開設して、下級生の相談を受け付けた。市ヶ谷キャンパスで展開されている学習ステーションのシステムを多摩キャンパスでも実施していただけるよう、教育開発・学習支援センター長宛に要望書を出し、教育支援課が多摩事務部と連携しながら、開設の方向で検討することになった。成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」を例年通り行った。
		改善策	より効果的に活用できるように「先輩学生による相談窓口」は次年度は春に行うことになった。
質保証委員会による点検・評価			
所見	「先輩学生による相談窓口」の開設、多摩での学習ステーション開設への働きかけなど、一歩先に進んだ取り組みは大いに評価できる。しかし、学生支援に関して、多摩キャンパスは市ヶ谷にくらべてはるかに遅れていると言わざるを得ない。例えば「課外教養プログラム」の多くは市ヶ谷キャンパスで開催されており、ピア・サポート研修なども多摩キャンパスの学生が市ヶ谷にいかなくてはならないことも多いなど、引き続き改善が求められる。		
改善のための提言	引き続き教育開発・学習支援センターと連携して、多摩キャンパスの学習ステーションの早期開設を進める必要がある。		
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
7	中期目標	①多摩キャンパスで取り組んでいる多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 ②大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行っ	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

		ていく。
年度目標		①コロナ禍で可能な社会貢献・社会連携についての学部内での理解を深める。
達成指標		①コロナ禍で行われている社会貢献・社会連携についての情報が収集される。
年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	学部研究発表会において地域連携について調査を伴う報告が複数あった。多摩将来計画の研究プロジェクトにおいて社会学部の複数の教員も参加して社会的起業に関するインキュベーション活動が行われ、社会学部の学生が複数参加した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	執行部報告にもある通り、2021年度の学部研究発表会における報告や多摩将来計画の研究プロジェクトにおけるインキュベーション活動において、複数の教員と学生の参加のもと地域連携に関する活発な活動が行われたことは、昨年度と比べると大きな前進であり、コロナ禍においてこのような成果があったことは高く評価できる。
	改善のための提言	来年度以降、このような教員と学生の参加による地域・社会連携に関する報告や活動が、さらに活発になることを期待する。
<p><b>【重点目標】</b> With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業とオンライン授業をそれぞれどのように運営し、またカリキュラム全体の中でどう配置していったらよいのか、また多摩キャンパスの立地や教室数等を踏まえてどのような時間割編成が望ましいのかを検討し、2022年度授業実施に活かしていくこと。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b> 将来構想委員会を立ち上げ、With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業とオンライン授業の運営や時間割配置、インフラ整備等を検討していく。また HOSEI2030 の柱の一つであるキャンパス再構築について現在検討・実施の中心にある多摩将来計画推進委員会における多摩キャンパスの対面・オンライン授業体制構築のための IT インフラやシステムの検討とも連携していく。</p> <p><b>【年度目標達成状況総括】</b> コロナ禍2年目となり、依然として行動制限レベルが上下する中、2021年度を通じて対面・オンライン授業、各種ガイダンス、学部研究発表会などの授業外イベント等をスムーズに行うことができた。その中で英語・諸外国語カリキュラムの改革を目的とした2022年度からのカリキュラム変更の準備も完了した。また将来構想委員会を中心に2022年度のWith コロナ・ポストコロナの中での対面・オンライン授業の組み合わせと時間割について議論を行うとともに、バス問題、ネットワークキャパシティなど多摩キャンパス共通の問題についても多摩将来計画推進委員会と連携しながら現状分析を行った。年度後半には授業科目のスリム化についての計画策定も行った。しかし2018年度カリキュラムが4年目を迎える中で、卒論提出率の低下などに有効な対処ができなかったことや、2018年度カリの評価が十分できなかったことが反省点である。</p>		

**【2021年度目標の達成状況に関する大学評価】**

社会学部の2021年度目標では、2018年度から導入された新カリキュラムの4年目にあたるため、その成果として教育効果を評価することを掲げていたが、2022年度には「十分できなかった」とのことである。一方で、学部将来構想委員会を中心に、2022年度のWithコロナ・ポストコロナの中での対面・オンライン授業の組み合わせと時間割について議論を行い、多摩将来計画推進委員会と連携しながら多摩キャンパス全体を視野に入れて教育に必要なインフラ整備に向けた検討を行った点は高く評価できる。

専門演習の履修率や卒論の提出率の低下傾向にどのように歯止めをかけるのか、直面する課題への効果的な対策を講じることが喫緊の課題と言える。

**IV 2022年度中期目標・年度目標**

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
----	------	----------------------------

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

1	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図る（2022年度～2025年度）</li> <li>・2022年度生の外国語教育の見通しが見え始める2024年度以降、外国語新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。</li> <li>・2018年度から導入したカリキュラムについて評価検討し、今後のカリキュラムについて検討する。</li> </ul>
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの運営状況について、教員間で情報共有を図る。</li> <li>・新カリキュラム下での学習の円滑化を図る。</li> <li>・2018年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集を行う。</li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会、外国語教育委員会、学科カリキュラム運営会議などで、カリキュラムの運営状況に関する情報共有ができています。</li> <li>・学生に対し、適切なガイダンスを実施する。</li> <li>・2018年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集蓄積がある。</li> </ul>
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。</li> <li>・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせるの質の高い授業を検討する。</li> </ul>
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による履修相談会、「先輩学生による相談窓口」（新規）、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスを着実に実施していく。</li> <li>・ポストコロナに向けて、教育効果の観点から、対面授業、オンライン授業、オンデマンド授業の使い分けについて検討に着手する。</li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による履修相談会、「先輩による相談窓口」（新規）、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスを実施している。</li> <li>・対面授業、オンライン授業、オンデマンド授業の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員相互で情報共有している。</li> </ul>
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年次教育のうち基礎演習の在り方について、より効果的な教育内容、教育方法、少人数教育の一層の充実化を進める。</li> <li>・学部教育の中心的存在である演習1、2、3について履修率、卒業論文の提出率の向上を目指す。また、優秀卒業論文集の刊行を継続し、各演習での学習に活用する。</li> </ul>
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習の教育内容の向上のために、基礎演習担当者による懇談会の成果を活用する。</li> <li>・基礎演習各クラスの状況と問題点を把握する。</li> <li>・演習1、2、3の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法の検討にむけて、履修状況、運営実態を確認する。</li> <li>・優秀卒業論文集をweb公開し、活用しやすくする。</li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習担当者による懇談会の成果を活用して、必要に応じて、基礎演習の教育内容の向上策を提案できている。</li> <li>・演習1、2、3の履修状況、運営実態を把握している。</li> <li>・優秀卒業論文集の刊行、web公開している。</li> </ul>
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した定員充足率が維持できるよう査定する。</li> <li>・高等学校の新教育課程の開始に対応して入試科目等の内容を検討する。</li> </ul>
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した入学定員が維持されるよう、査定とそのため情報収集に努める。</li> <li>・入学センターから入試制度の検討のための情報収集を行う。</li> </ul>
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した定員充足率が維持されている。</li> </ul>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

		・入試制度の導入を検討するため収集した情報を精査する。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	・2022年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について検討し順次実行していく。
	年度目標	・専任教員の欠員見込み状況を確認する。 ・専任教員の欠員について採用対応する。
	達成指標	・専任教員の欠員見込み状況が確認できている。 ・専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	・オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、「先輩学生による相談窓口」（2022年度新規）、成績不振学生に対する個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。
	年度目標	・「先輩学生による相談窓口」（新規）を実施しキャンパス生活に関する不安に対応する。 ・「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を行う。 ・オフィスアワーの実施を徹底する。
	達成指標	・「先輩学生による相談窓口」（新規）の実施 ・「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援の成果ができています。 ・オフィスアワーが設定されている。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	・多摩キャンパスで取り組んでいる多摩地域交流センター、グローバル教育センターなどが進める事業及び学部の共催協賛等の事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。
	年度目標	・多摩地域交流センター、グローバル教育センターなどが進める事業を着実に実施する。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加を継続する。 ・学部70周年記念事業を行い、可能な範囲で学外にも公開する。
	達成指標	・多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業の実施。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加。 ・学部70周年記念事業を行い、学外にも公開されている。
<p><b>【重点目標】</b> 社会学部にとっては、2022年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図ることが最も重要である。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b> 教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの適切な運営が図られているか専任教員間で情報共有を行う。また、1年生の履修登録などで適切な情報提供を行い、1年次学生が新外国語カリキュラムにスムーズに適應できるように修学支援を行う。</p>		

**【2022年度中期目標・年度目標に関する大学評価】**

社会学部において2022年度から改編された外国語の新カリキュラムが順調に運用され学生が履修しているかという点について、教授会、外国語教育委員会および「学科カリキュラム運営会議」において検証することを重点目標に掲げていることは適切である。また、先輩学生による相談窓口の新規開設も評価できる。一方、2021年度の年度目標の達成評価で課題として挙げられた以下の2点、2018年度から導入された新カリキュラムの教育効果の検証と専門演習の履修率や卒論の提出率の改善、さらに2021年度に検討されたWithコロナ・ポストコロナの中での対面・オンライン授業の組み合わせと時間割に関する検討の継続についても、しっかりと取り組まれることを期待したい。

**【大学評価総評】**

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ  
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

社会学部において、2018年度から導入された新カリキュラムの円滑な運営を図る中で、語学についても2022年度から新カリキュラムがスタートすることができたことは評価できる。これらの新しいカリキュラム体系の運用と教育効果について、しっかりと検証していくことが求められる。

学部FD委員会において、基礎演習や専門演習など、教育内容の向上に継続的に取り組んでいる点、複数教員が連携する授業では互いに授業方法について検討し、授業の質の向上に努めている点が高く評価できる。

今後、昨年度の質保証委員会からの提言にあるように、Withコロナ、ポストコロナに向けて、対面授業とオンライン授業をそれぞれどのように運営し、カリキュラム全体の中でどう配置するのか、どのような時間割編成が望ましいのかについて継続的に検討することが望まれる。さらに、すべての学生の学修成果を的確に把握することについても、さらなる検討を進めることが期待される。

また、社会貢献・社会連携については、多摩地域交流センターを通じて、多摩キャンパスの資源を活用しながら、より一層活発な取り組みが行われることを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。